

【選手紹介】 指揮者・佐藤章さん(八木沢・芦原)、1番員・木幡邦彦さん(伊丹沢)、2番員・大内匡泰さん(佐須)、3番員・高野敬さん(草野)、補充員・佐々木栄一さん(佐須)



避難先から村に通い練習を重ねた選手達。息の合った機敏な動作を、大会本番でも披露しました

## 消防操法大会 相馬地方大会 村消防団の代表が出場

8月5日、相馬市の長友グラウンドで、第41回福島県消防操法大会の相馬地方大会が開催され、村消防団の代表が、「小型ポンプ操法の部」に出場しました。この大会は、消防団の消防技術向上などを目的に、2年に1度、開催されているものです。村消防団の選手達は、団の関係者と共に、休日などに練習を重ね、大会に臨んでいます。会場に駆け付けた家族や村消防団、女性消防隊などの声援を受け、練習の成果を発揮して、村の代表にふさわしい消防技術を披露しました。

## 夜空と湖面に大輪の花火 はやま湖花火大会

7月29日、はやま湖(真野ダム)の湖畔で「2018年はやま湖花火大会」が開催され、約500人が現地を訪れました。会場では、打ち上げ前から、「大倉の神楽」の上演や、「サマージャンボ宝くじ」の協賛によるくじ引きなどが行われ、また、地区の有志による屋台も出て、観客を歓迎しました。日没を待ってよいよ打ち上げられた花火は、大玉、スターメイン、水中花火など約1,000発。花火の音が谷間に響き、湖面が色とりどりの輝きを映す光景に、会場は何度も歓声に包まれました。



会場には多くの家族連れが訪れ、地域の神楽や迫力満点の花火を、仲睦まじく楽しんでいました

## 8年ぶりの屋外開催 いいたてホームの夏祭り



浴衣姿の入居者が、子や孫、ひ孫らに囲まれて、笑顔を交わしながら、祭りを楽しんでいました

特別養護老人ホーム「いいたてホーム」の夏祭り、入居者とその家族が、スイカ割りや盆踊り、花火などを楽しみました。ホームでは毎年夏祭りを開いていますが、震災後は、屋内のホールが会場でした。今年は施設前の広場にやぐらを組み、職員や地域のボランティアが、おいしい料理やゲームの屋台を準備。震災前に一歩近づく夏祭りとなりました。入居者の孫の孫という菅野美佑貴さん(南相馬市)は「楽しくて、なんかほっとしますね」と、にぎやかな光景に笑顔を見せていました。

## 防犯指導隊の委嘱状交付式 防犯環境整備事業もスタート

7月30日、交流センター「ふれ愛館」で、村防犯指導隊の委嘱状交付式が行われ、合わせて防犯環境整備事業開始式が開かれました。この事業は、警察署が、希望世帯に防犯カメラとセンサーライトを貸し出すもので、帰還した65歳以上の住民が対象です。式の中で、村内利用者第1号の佐藤一行さん(上飯樋)が、宗像敏文南相馬警察署副署長から、一式を受け取りました。佐藤さんは、「自宅前も写るよう防犯カメラを設置し、地域の安全にも役立てたい」と話していました。

利用希望の方は南相馬警察署生活安全課  
☎0244-22-2191までお問い合わせを



佐藤さんに(左)にカメラ等を手渡す宗像副署長。後列は委嘱を受けた村防犯指導隊の隊員

## 上下水道等の将来を見すえて 村民の視点で審議会が答申



答申を行う大越会長(中央右)と委員(右列)。「運営の難しさも考慮しながら知恵を絞って検討しました」

8月6日、第7次飯館村水道事業運営審議会・飯館村農業集落排水事業運営審議会が、村への答申を行いました。両審議会は、水道料金等の設定と徴収再開について諮問を受け、今年1月から会議を重ねてきました。代表して大越憲一会長が答申書を読み上げ、住民の帰還状況などを考慮した料金体系の見直しと、平成31年度からの徴収再開を答申しました。答申を受けた菅野村長は、「大切な事業であり、皆さんの声を聞いて真剣に進めたい」と述べ、委員の協力に感謝を伝えました。

## 200人のボランティアが植栽 道の駅に応援の花壇

7月30日、開業1周年を約2週間後に控えた「いいたて村の道の駅までい館」で、約1,000株の花を植栽するボランティア活動が行われました。植栽を行ったのは、社会貢献活動の一環として、村民の生活環境整備などを支援しているNTT労働組合ドコモ本部の皆さんです。村の関係機関と打ち合わせを重ね、要望も取り入れて、この日の活動に臨みました。植栽を行った組合員有志は、全国各地から参加しており、「これからも村への支援を継続したい」と話していました。



約200人の参加者の手で植えられたポーチュラカやニチニチソウが、道の駅の前面を飾りました